

個別受注型製造業向け 余計な図面を描かない！ モジュール化設計手法入門

新規図面を最少限に抑え、設計工数を最少化しよう！

日時 2019年 **12月20日(金)** 10:00~17:00
(9:30 受付開始、休憩 12:30~13:30)

主催  **日刊工業新聞社**

会場 **日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場**
(大阪市中央区北浜東2-16)

受講料 **44,000円** (資料含む、消費税込)
*同時複数人数お申し込みの場合2人目から39,600円
※後日、別の方が追加で申込をされる際は、備考欄に先に申し込まれた方のお名前と複数割適用希望と記載ください。
(記載が無い場合は通常料金のご請求となります。予めご了承ください)

大阪会場(日刊工業新聞社 大阪支社10階)
大阪市中央区北浜東2-16 TEL:06(6946)3382

*天満橋駅(京阪電車、地下鉄谷町線)下車徒歩3分
■新大阪駅から地下鉄御堂筋線(新大阪→淀屋橋)北側出口 乗換、京阪電車(淀屋橋→天満橋)西改札口
■大阪駅から地下鉄谷町線(東梅田→天満橋)北側2番出口



日刊工業新聞社 大阪支社 セミナー会場

〒540-0031 大阪市中央区北浜東2-16
※会場には受講者用の駐車場がありません。必ず最寄りの公共交通機関でご来場ください。
※講義の録音・録画は固くお断りいたします。

●申込方法

申込書を郵送又はFAXにて下記にお申し込みください。ホームページからもお申し込みできます。(http://corp.nikkan.co.jp/seminars/) 受講料は銀行振込で受講票及び請求書が到着次第、開催日1週間前までにお支払いください。
なお、キャンセルにつきましては開催日1週間前までの受付とさせていただきます。1週間前までにご連絡がない場合はご欠席の方もキャンセル料として受講料全額を頂きます。振込手数料は貴社でご負担願います。

口座名義	りそな銀行	東京営業部	当座	656007
㈱日刊工業新聞社	三井住友銀行	神田支店	当座	1023771
	みずほ銀行	九段支店	当座	21049
	三菱UFJ銀行	神保町支店	当座	9000445

●申込先 日刊工業新聞社 総合事業局 教育事業部 技術セミナー係

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 (住生日本橋小網町ビル)
TEL 03 (5644) 7222 FAX 03 (5644) 7215
e-mail : j-seminar@media.nikkan.co.jp

受講申込書	12/20 高効率設計		お申し込みは FAX 03-5644-7215	
	■受講料: 44,000円 (資料含む、消費税込) *同時複数人数お申し込みの場合2人目から39,600円			※振込手数料は貴社にてご負担ください。
会社名	フリガナ		業種	
氏名	フリガナ	部署・役職	TEL	
			FAX	
所在地	〒		E-mail	※今後、E-mailによるご案内を希望しない方は <input type="checkbox"/> チェックをしてください。
備考				

※お申込み受付後、受講票ならびに請求書をお送りいたします。

No.192160

個人情報の取り扱いについて

ご登録いただいた情報は日刊工業新聞社が細心の注意を払い、展示会・セミナー・サービス等、各種ご案内を送らせていただくことを目的に利用させていただきます。
なお、宛先変更・配信停止をご希望の際は右記までご連絡ください。【ご連絡先】日刊工業サービスセンター 情報事業部 nkmail01@nikkansc.co.jp

開催主旨

企業規模や取り扱う製品の分野を問わず、製造業の設計部隊は人手不足で大変忙しい状況です。働き方改革が叫ばれる中、設計の品質を落とすことなく残業を削減するためには、とかく、「余計な図面を描かない」設計工数を削減することに尽きます。

多くの設計技術者は、新規で設計をする際、ゼロから設計をするのではなく、過去の図面を一部流用しております。過去に製品化された図面は品質面の検証がなされたものであり、流用しての設計には一定の合理性があります。しかしながら、流用元の選定を間違えた結果、作成する必要がない余計な図面が増えていきます。形状が少し違うなどの図面が図番違いでたくさん存在する。そんな状態になってしまっている企業が少なくありません。

似たような図面が増えることは、混乱の元であり、ムダな設計工数・残業の温床です。

そこで、本セミナーでは設計工数の最少化、余計な図面を描かないことをめざし、【過去に設計した製品の「コア技術」の見える化】、【コア技術を使用するモジュール化設計の考え方】、【モジュール化を通じて削減された工数と余裕時間での新規設計部の品質確保の方法】と、設計の全プロセスに対しての設計改革の進め方を解説し、グループワークを通じて、体得いただきます。

ぜひ、【モジュール化設計】のノウハウと【品質確保】の手法を通じて、余計な図面を描かない、設計工数の削減を達成してください。

講師

(株) A&Mコンサルト 取締役 経営コンサルタント **中山 聡史 氏**

【略歴】 関西大学機械システム工学科を卒業した後、トヨタ自動車(株)に入社。エンジン設計および開発、品質管理、環境対応業務などに従事し、ほぼすべてのエンジンシステムに関わる。また、海外での走行テストなども経験する。2011年、A&Mコンサルトに入社。「モノ造りのQCDの80%は設計で決まる!」の理念のもと、多くのモノづくり企業で設計業務改革を推進する。例えば、機械設備産業会社「A社」においては3DCAD導入に伴う設計業務改革コンサルティングに当たり、モジュール化による出図納期50%改善などの成果を、機械設備産業会社「B社」においては、デザインレビュー(DR)の仕組の構築および定着などに当たり、設計不良件数20%低減などの成果をそれぞれ上げている。そのほか品質・製造改善や生産管理システムの構築も得意とする。

プログラム

1. 現状の間違った設計のやり方
(編集&流用設計による問題点)
2. 間違った設計のやり方によって発生する品質問題
3. 品質問題から考える間違った設計方法
 - 3-1 間違ったモジュール化
 - 3-2 間違った変化点管理
 - 3-3 バックローディング
4. 設計改革方法
 - 4-1 フロントローディング
 - 4-2 あるべき設計プロセス
 - 4-3 コア技術・モジュール化・変化点管理
5. コア技術の見える化
 - 5-1 コア技術の必要性
 - 5-2 コア技術の定義
 - 5-3 コア技術の体系化
 - 5-4 コア技術の事例紹介
6. 最新モジュール化手法
 - 6-1 モジュール化の基本概念
 - 6-2 モジュール化のメリットとデメリット
 - 6-3 モジュール化の時代の変遷と現状の考え方
 - 6-4 モジュール化事例紹介
 - 6-5 モジュール化の進め方
 - 6-6 ~演習: 大流行した小型モーター動力自動車プラモデルをモジュール化し、理解を深める~
7. 変化点管理手法
 - 7-1 モジュール活用部分と新規部分の抽出方法
 - 7-2 変化点管理方法
 - 7-3 新規設計部分での問題抽出DRBFM
 - ① DRBFMの定義、誕生の経緯
 - ② DRBFMの構成
 - ③ DRBFMの検討内容
 - ④ DRBFMの内容
 - 7-4 ~演習100円ライターを用いた問題の未然防止~



実際のセミナー風景

~演習を通じて実務に活かせるイメージをつかんでいただきます~